

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520281

研究課題名(和文) 英国18～19世紀予約購読出版詩集と定期刊行物におけるその書評についての研究

研究課題名(英文) Periodical Reviews of Poetical Works Published by Subscription in the 18th -19th Century Britain

研究代表者

小林 英美 (Kobayashi, Hidemi)

茨城大学・教育学部・准教授

研究者番号：70277862

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円、(間接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：作品出版時の読者層に注目した若手研究(B)と基盤研究(C)を発展・継続したもので、今回は先行研究とは逆に出版後の書評に焦点をあてた。初年度は、特に労働者階級女性詩人Handsの研究を行い、その支援者たちの影が書評にも認められることを発表した。2年度目はCharlotte Smithの詩集への書評と支援者の関係を、主催したシンポジウム「拡大する読者と英米文学」で明らかにした。最終年度はAnne Grantの文学史上の意義を書評の分析を通して究明した。この研究でロマン派時代の詩人と予約購読者と定期刊行物の書評者の知られざる関係、文学的潜在能力を育むコミュニティを明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：It is a research developed from Grant-in-Aid for Young Scientist (B type) and Grant-in-Aid for Scientific Research (C type). Though the preceding studies focused on circumstances before publication, the main issue of the project was contemporary periodical reviews on poets who used subscription. In the first year, a close relationship between the poet, the subscribers and the reviewers was found in reviews for poems by a working class poet, Elizabeth Hands; the achievement became a paper in 2011. In the second year, similar relationship was found out by a research on reviews for Charlotte Smith's works; it became a paper read in a symposium in 2012. And in 2013, another case study on reviews of Anne Grant became a paper at a conference. The project shed light upon the hidden relationship between the poets, the subscribers and the reviewers in the age of Romanticism. It can be said it was a literary community which grew potential capacity of literature for the future.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：英国ロマン派時代 予約購読形式出版 詩集 定期刊行物 書評 英国読者層 女性詩人

1. 研究開始当初の背景

18世紀末から19世紀前半にかけてのイギリス・ロマン派時代の文学研究において、同時代の読者層と文学の相互関係を解明することの重要性が一段と認識されてきている。受容理論や歴史主義理論等の立場から、古くは Richard D. Altick の *The English Common Reader* (1957)、Jon P. Klancher の *The Making of English Reading Audience, 1790-1832* (1987) が代表的なものであったが、最近では新たな歴史的研究成果や女性詩人研究の成果を基盤にして一層精緻な考察がなされるようになってきている。特に受容理論の流れを組む研究は活発に発表されてきており、例えば Lucy Newlyn の *Reading, Writing, and Romanticism* (2000) では、読者の作品受容の有様に翻弄される作家の創作姿勢が事例ごとに具体的に検証されて高く評価されている。またこれと同様な傾向の研究としては、Franta の *Romanticism and the Rise of the Mass Public*(2007)などが続いており、対象となる詩人・作家に広がりを見せているだけでなく、後述の書誌学的研究の成果を大きく反映するものになってきている。

一方、実証的な歴史的検証をともなった文学研究としては、William St.Clair による *The Reading Nation in the Romantic Period* (2004) があり、同時代の書籍取引帳簿をはじめとする貴重な1次資料の分析をもとにして、文学作品と読者と出版業者の相互依存関係に新たな視点を提供している。またこのSt.Clairのような研究の基盤となる歴史的書誌学研究書も著されており、例えば Richard B. Sher の *The Enlightenment and the Book Scottish Authors and Their Publishers in Eighteenth-Century Britain, Ireland and America* (2006)は18世紀のスコットランドの作家と出版者に焦点を絞って論じ、James Raven は *The Business of*

Book (2007)で、最新の資料と調査結果をもとにして、15世紀半ばから19世紀半ばまでの出版史を説明し、2010年には、Michael Suarez SJ と Michael L. Turner 共編 *The Cambridge History of the Book in Britain: Volume 5, 1695-1830* が刊行されるに至っている。これは同時代の歴史的書誌学研究書の決定版と言えるもので、今後の同分野の文学研究にとっても羅針盤となるものと言える。

しかしながら、このような歴史的実証をともなった文学研究は、海外でもまだ充分とは言えず、前掲の先行研究書においてさえもほとんど考察されていない研究課題がある。その一つが予約購読出版を中心にした読者層と文学の相互影響関係という課題であり、研究代表者が1997-98年に日本学術振興会特別研究員として英国オックスフォード大学に留学した際に基礎研究を開始し、若手研究(B)「英国18-19世紀の予約購読出版を利用した読者と作家と出版者についての歴史的文学研究」で研究を進め、さらに基盤研究(C)「英国18-19世紀予約購読出版と文芸サークルが女性詩人支援に果たした役割」で考究してきた課題でもある。

予約購読出版と文学との影響関係の研究は、ロマン派時代に先行する18世紀前半に関しては、上流階級パトロンとの役割の観点からすでに研究が進められている。しかし18世紀末から19世紀前半にかけては、ロマン派研究の権威であった故 Jonathan Wordsworth 教授や、前掲 *The Cambridge History of the Book in Britain* の編者 Suarez 教授らも、その重要性を認めるところでありながら、内外を問わずほとんど未開拓である。ゆえに本研究は国際的にも意義のある課題と言える。そこで若手研究(B)では、一次資料の収集とその精査を行なうと同時に、未着手の事例研究を行なった。事例研

究は、文学史において主流となる詩人に影響を及ぼした詩人と読者層の相互関係を一次資料から明らかにするものであった。具体的には下層階級女性詩人 Ann Yearsley とスコットランド女性詩人 Joanna Baillie の二人であり、それぞれの周辺の読者層と出版業者との相互関係の重要性を、予約購読出版の活用状況から考察した。いずれもわが国ではあまり研究されていない詩人であったので、国内での研究発表では、これらの詩人の文学的重要性を国内の研究者に認知させる意義も果たせたと考える。また 2006 年度のイギリス・ロマン派学会シンポジウムは、読者層と文学に関するもので、研究代表者が発題・司会進行を行なったが、ここでも同時代文学と読者層の関係についての研究の重要性を訴えることができたと考える。

以上の研究成果を踏まえて、平成 18 22 年度基盤研究(C)「英国 18 - 19 世紀予約購読出版と文芸サークルが女性詩人支援に果たした役割」では、若手研究(B)を通して明らかになった予約購読出版と文学サークルの相互関係の重要性に着目して研究した。予約購読出版という形態を利用した詩人や読者の基盤に、文学サークルが存在する事例が多いことが、これまでの研究から判明してきたからであり、特にスコットランド啓蒙主義が英国の文芸サークルすなわち読者と文学に及ぼした影響がすこぶる大きかったことも明らかになった。具体的には Robert Burns, Anne Grant, Janet Little, Charlotte Smith, Helen Maria Williams らに関わるサークルと人脈を、予約購読者一覧の分析によって明らかにし、諸学会において研究発表した。また 2010 年 12 月には欧米言語文化学会において、研究代表者が発題・司会進行して、アメリカ文学研究者も交えたシンポジウムを行なったが、読者の人脈や文芸サークル

と文学嗜好の関係についての研究テーマが、英国にとどまる狭い問題ではなく、拡大・深化していく可能性の高い、将来性・継続性のある研究であることが明らかになるであろう。

2. 研究の目的

今回の研究テーマは、以上の成果をふまえた発展・継承的なものである。予約購読詩集の出版後に着目する本研究によって、同時代の予約購読出版と詩集・詩人の関係についての一連の研究は、一つの節目を迎えることにもなる。研究代表者はこれまで一貫して、18 - 19 世紀英国の予約購読出版形式を利用した詩人とその読者・支援者層を、詩集出版前の状況に焦点をおいて研究してきたが、今回は出版後の評価に着目することにし、特に同時代定期刊行物における書評を中心にして研究する。予約購読出版された詩集の書評と文壇・文学思潮の形成に着目した研究は、前例がなく初の試みと言える。

本研究の結果、定期刊行物の書評者と予約購読形式出版詩集の支援者との思想的相違・相似等(フランス革命期の政治思想的立場、詩人と支援者・出版者の間の人間関係等の変化)が、書評に具体的にどのように現れ、文壇における作品と詩人の評価をどのように決定づけたのかが、明らかにできる。

著名な詩人の作品の定期刊行物書評を使った研究はこれまでも数多くなされてきたが、本研究のように、特殊な出版形式を利用した無名の詩人や女性詩人を対象にした書評に関する研究は皆無であった。しかしそのようなこれまで無名であった詩人についての研究が、アンソロジーや復刻版等で徐々に進展しつつある現在、予約購読出版形式詩集とその書評をめぐる本研究は、同時代読者と文学思潮の形成過程を明らかにするためには不可欠なものであり、最終的には、キャンノンの評価と対照することによって、読者と文学の関係についての研究分野に新たな展

望を提供することになる。

3. 研究の方法

18 - 19 世紀の定期刊行物関係の資料、研究対象とする詩人に関する資料、同時代社会史・文学関係の資料を補充しつつ、以下に提示した主題の研究を行なった。著名な詩人の作品の書評については、書籍等にもなっているが、今回研究対象とした予約購読出版を利用した詩人たちの作品の書評はほとんど書籍化されておらず、書評が掲載された定期刊行物それ自体にあたらなければならなかった。

そのような定期刊行物は Eighteenth Century Collections Online (ECCO) や Hathi Trust Digital Library(HTDL)等を通して、電子化された資料として、国内で閲覧できるものもあったが、電子化のコンディションが不良であるものもあったため、海外の図書館において実物を閲覧することになった。該当する研究調査対象は、最初の2年間で確認し、最終年に海外出張で調査(大英図書館やオックスフォード大学ボドリアン図書館等)をすることにした。なお ECCO は、早稲田大学に導入されているものが利用でき、HTDL は本務校からアクセスできた。また研究成果は随時学会で発表し、他の研究者と意見交換も行なった。年度別の計画内容・研究方法は以下のとおりである。

平成 23 年度

- (1) 3 年間の研究計画で研究対象としている詩人の書評を掲載している定期刊行物の所蔵図書館と、電子資料等で閲覧可能かを調査・確認。
- (2) Elizabeth Hands と Felicia Hemans らの人脈・関連サークルの再確認。
- (3) Elizabeth Hands と Felicia Hemans らの詩集の定期刊行物書評の収集と分析。

- (4) 学会での研究成果発表。

平成 24 年度

- (1) Helen Maria Williams と Charlotte Smith ら イングランド系詩人の人脈・関連サークルの再確認。
- (2) Helen Maria Williams と Charlotte Smith らの詩集の定期刊行物書評の収集と分析。
- (3) 学会での研究成果発表。

平成 25 年度

- (1) Anne Grant と Janet Little ら スコットランド系詩人の人脈・関連サークルの再確認。
- (2) Anne Grant と Janet Little らの詩集の定期刊行物書評の収集と分析。
- (3) 海外の図書館(大英図書館やオックスフォード大学ボドリアン図書館等)で資料を収集。
- (4) 学会での研究成果発表。
- (5) 調査研究の総括と報告書の作成。

4. 研究成果

本研究の基盤となった二つの研究、すなわち平成 16 - 18 年度若手研究(B)と平成 19 - 22 年度基盤研究(C)では、一貫して 18 - 19 世紀英国の予約購読出版形式を利用した詩人とその読者・支援者層についての研究を、特に出版前の状況に注目して行ってきた。しかし今回は、出版後の作品評価とその詩人への影響に焦点をあて、予約購読形式で出版された詩集への同時代定期刊行物書評を研究した。

初年度は、研究対象の書評を掲載している定期刊行物の所蔵図書館と、電子資料等での閲覧の可否を確認する文献調査を実施し、刊行・配本が開始されたばかりの *Romantic Women Writers Reviewed*(Pickering, 2011) を活用した。一方事例研究は、特に労働者階級女性詩人 Elizabeth Hands の研究を当初計画よりも先行して行い、この詩人の支援者たちの影を、同時代定期刊行物書評にも認め

られることを、学会発表で明らかにした。

2年度目は、文献調査を続行すると同時に、事例研究として Helen Maria Williams と Charlotte Smith の詩集への書評を扱い、その成果は研究代表者が発起人となったミニ・シンポジウム「拡大する読者と英米文学」(欧米言語文化学会第126回例会)でのパネリストとしての発表では、Charlotte Smith の詩集の事例の特殊性(増補再版で高額)を具体的な証左を示しながら論じた。

最終年度では、まず文献研究の中核である前掲書の第2期配本の精査完了と同時に渡英して、大英図書館等で資料収集を行なった。特に二人の無名のスコットランド詩人 Anne Grant と Andrew Scott に関する資料を収集することができ、前者については学会発表で利用した。発表では、同時代の予約購読形式出版詩集の特殊性とその詩集が定期刊行物書評として取り上げられる意義を提示したうえで、Grant の詩集の同時代における受容の実情と文学史上の存在意義を定期刊行物書評と予約購読者の分析を通して探るものであった。

この3年間の研究によって、予約購読出版形式詩集にとっての定期刊行物の書評の役割を具体的な事例から明らかにすることができた。即ち、中流階級支援者(予約購読者)によって文壇に登った社会的発言力が弱い無名詩人(女性や労働者階級等)が、定期刊行物書評を通して、予約購読という限定的にしかなかったその存在を広く認知される文壇上のプロセスを具体化できたのであった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計3件)

- (1) 小林 英美、予約購読出版詩集と定期刊行物書評— Grant 夫人の場合、欧米言語文化学会第127回例会、2013.12.1、日本大学
- (2) 小林 英美、Charlotte Smith: 支援者を

通して拡大・増加する読者、発起人兼パネル、ミニ・シンポジウム「拡大する読者と英米文学」、欧米言語文化学会第126回例会、2013.3.3、日本大学

- (3) 小林 英美、18世紀末英国の予約購読形式出版詩集とその書評— エリザベス・ハズの事例研究、欧米言語文化学会第124回例会、2011.12.4、日本大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 英美 (KOBAYASHI, Hidemi)
茨城大学・教育学部・准教授
研究者番号: 70277862

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し